

第8課 教育とあがない

【暗唱聖句】

「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です」

第二テモテ 3:16

【日曜日・神にかたどって】

創世記 1:26 で、神様は「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう」と言われ人間を創造されたことが書かれてあります。「かたどって」という言葉は姿形を似せてという意味ですが、次の「似せて」という言葉は、姿形だけでなく内面も似せてという意味合いがあるそうです。しかし罪の結果、神様の形から大きく変わってしまったのです。そのために教育の第一の目的は、人間の中に神様の形を回復することなのです。

ではどうしたらこの目的を達成することができるのでしょうか。最も大切なことは、神様と交わることです。アダムがセトを授かったときのことが次のように書かれてあります。

「アダムは百三十歳になったとき、自分に似た、自分にかたどった男の子をもうけた。アダムはその子をセトと名付けた」創世記 5:3

自分に似た、自分にかたどったと、まるで神様は人間を創造されたときのような表現が使われているのは興味深いことです。今でこそ、遺伝子によって似た子どもが生まれてくることが分かっているのですが、それでも自分に似た子どもが生まれてくるといのは不思議なものです。そして、子どもは親と一緒に暮らします。親の真似をしたり、親が好きなのが好きになったり、親が大切だということを大切にするようになり、そうすることでますます親と似ていきます。神様との関係も同じです。罪を赦されてもう一度神様のもとに立ち返り、いつも神様と一緒に生きることで、しだいに神様の形を回復していくことができるのです。

【月曜日・先生としてのイエス】

イエス様には多くの側面がありますが、人々からは「先生」と呼ばれることが度々ありました。それは、イエス様が神の国の真理を教えたからです。旧約の預言者は次のようにイエス様について語っています。

「エッサイの株からひとつの芽が萌えいで、その根からひとつの若枝が育ち、その上に主の霊がとどまる。知恵と識別の霊、思慮と勇気の霊、主を知り、畏れ敬う霊」イザヤ 11:1、2

イエス様には知恵と識別、思慮などの霊が与えられ、それによって人々に真理を教えることができました。また、「水が海を覆っているように大地は主を知る知識で満たされる」（イザヤ 11:9）とあるように、イエス様を通して人々は神様を知る知識でいっぱい満たされるのです。

ニコデモが夜イエス様のもとにやって来て、「ラビ、わたしどもは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神が共におられるのでなければ、あなたのなさるようなしるしを、だれも行うことはできないからです。」（ヨハネ 3:2）と言います。ニコデモはイエス様を神様のもとから来られた教師と呼んでいます。それはイエス様はなさった数々のしるしは、神様が共におられなければ誰にもできないことだったからです。これはまさしくその通りでしたが、イエス様はこのようなニコデモの言葉を無視するかのように、話のポイントを自分ではなく、ニコデモの必要に向けられていきました。イエス様にとっての関心は、自分のことではなく、私たち一人一人だったからです。

【火曜日・モーセと預言者たち】

「だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません。あなたは、それをだれから学んだかを知

っており、また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」第二テモテ 3:14~17

モーセが書いた聖書の最初の部分であるモーセ五書は、しばしばトーラーと呼ばれます。そしてトーラーは律法を訳されます。それは多くの律法が記されているからですが、しかしトーラーという言葉は、「教えること」とか、「諭し」を意味しています。つまり「トーラー（律法）」というのは、神様との契約関係の中でどのように生きることが人間の幸福つながるのかを学ぶための教材でもあるのです。聖書の中には、祝福された人生を歩んだ人はもちろんのこと、逆に失敗した例もたくさん出てきます。これは反面教師の役割があります。後世の人たちは、成功した人も失敗した人もどちらも見ながら、神様が望まれる正しい生き方とは何なのかを学んでいくことができるのです。

またパウロは、聖書から学び確信したことから離れてはならないと言います。聖書を通して、キリストへの信仰が与えられ、救いへ導く知恵を与えられました。聖書は「人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く」ものです。その結果どうなるのか。それは「神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです」。

【水曜日・賢い男女】

教育の目的の一つとして、生きるために必要な知恵や知識を学ぶことがあります。神様はモーセにどんな学校でも学ぶことができない知恵や洞察力を与えられたと聖書に書かれてあります。

「神はソロモンに非常に豊かな知恵と洞察力と海辺の砂浜のような広い心をお授けになった」列王記上 5:9

ソロモンの知恵は、東方のどの人の知恵にも、エジプトのいかなる知恵にも勝っており、やがて広く知れ渡るようになっていきました。そして、世界中からその知恵を聞くためにソロモンのもとに集まってきたのです。知恵は实际的であり、倫理的です。他者に迷惑をかけず、他者の利益と不運から守るために役立ちます。この知恵は神様を畏れる信仰から始まります。ソロモンと同じ知恵とはいきませんが、聖書を通して同じ神様から知恵を学ぶことができます。学校では学ぶことのできない知恵を、聖書を通して学ぶことができるのです。

【木曜日・初代教会における教育】

イエス様は弟子たちと3年半の間、共に寝起きをしながら教育していかれました。そして、天に戻る日が近づいて来たとき、継続教育のために導き手であり助け主として聖霊を遣わすと言われました。

「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真理の霊である…」ヨハネ 14:16、17

聖霊は真理の霊とあり、御言葉の真理を解き明かしてくれることを意味しています。この真理の霊は、いま私たちにも与えられていますので、直接イエス様から教えを請わなくても大丈夫なのです。また、パウロは成熟したクリスチャンには、神の知恵を語ると言いました。それは互いに理解しあえるからです。それは霊の働きでした。

「わたしたちには、神が“霊”によってそのことを明らかに示してくださいました。“霊”は一切のことを、神の深みさえも究めます」第一コリント 2:10

主の霊が与えられていない人には、神の知恵を理解することができません。私たちが幸せに生きるために必要な知恵を理解できないとは、なんと残念なことでしょうか。究極の教育とは、聖霊によって導かれるものなのです。